

日刊 磐城時報

編輯部 石城郡平町新屋町十四番地
印刷部 石城郡平町新屋町十四番地
電話 磐城電話局掛電話四十四番
廣告料 一行十文字五拾銭
日刊(日曜、祭日) 休刊

朝鮮人の一團が 客の財布を強奪

傾城山まで追跡して 犯人片割れ二名逮捕

石城郡豊岡村大字豊岡伊藤新次(四四)は去る十二日午後零時半頃平町に來る途中飯野村谷川瀬慶尚南道尉山郡生れ田中政吉事火見橋下で朝鮮人數名が集り失物奪得(三三)同金明郡生れ山田敗すれば五十銭、當れば三倍に三郎事員等川(三三)と言ひ他の遊戯をやつてゐたのに釣り込まれ一回やつた處失敗したので五十銭を出したため財布の中から紙幣で十五圓を取り出した處朝鮮人は矢庭に右十五圓を強奪し逃走したので平署にその旨訴え出た、平署では最近同様の被害が各所に起つてゐるので犯人嚴探中の處二十七日結核豫防宣傳で警官隊の一行が自動車に乗り内郷村大字高坂に行つた處それら徒會の佛教講演會は三十日午後十時、大谷の兩巡査が飛び下り逮捕せんとした處一團は逃走を企てた覺昇氏である。

町制施行 十週年紀念

石城郡江名町では二十九日天皇節をとり町制施行十週年紀念式典を舉行した、同日は善行者、優良納稅組合員三十名の表彰を各所に起つてゐるので犯人嚴探中の處二十七日結核豫防宣傳で警官隊の一行が自動車に乗り内郷村大字高坂に行つた處それら徒會の佛教講演會は三十日午後十時、大谷の兩巡査が飛び下り逮捕せんとした處一團は逃走を企てた覺昇氏である。

佛敎講演會

石城郡佛教徒會の佛教講演會は三十日午後十時、大谷の兩巡査が飛び下り逮捕せんとした處一團は逃走を企てた覺昇氏である。

勿來町長は滿場一致で 赤津庄兵衛氏に決定

勿來町長後任問題は政、民兩派任の承諾を得た、赤津氏は所得互に候補者を擁立し紛糾を續け稅調査委員で本年三十八歳であるが、民政黨で推してゐた。赤津修一氏は辭退したので二十八日午前十時から町會を開き滿場一致で赤津庄兵衛氏に決定就郡三坂村大字中三坂大竹政二郎

共進會入賞馬

石城郡小名濱町字元分漁夫横山武三郎(二九)は二十七日午後三時頃同居人佐藤某の衣類四点を持ち出し入質せんとして隠匿し

衣類を隠匿

石城郡小名濱町字元分漁夫横山武三郎(二九)は二十七日午後三時頃同居人佐藤某の衣類四点を持ち出し入質せんとして隠匿し

あはて、飛下り 列車の下に轉落 乗越した旅客の奇禍

石城郡荷路夫村善作妻鈴木ひで(四八)は二十八日午後六時五十分、九分常磐線泉驛で列車が發車したのであつて、逆に飛降り列車のホームの間に顔着肋骨を強打して間もなく絶命した、原因は會津若松一植田間の三等切符を所持し居り乗り越したものと誤り飛び降りたものである。

石城郡南 武徳大會

石城郡南武徳大會は二十九日植田警察署演武場で舉行したが優勝旗は山田分區の手に歸した。個人成績は左の如くである
▲劍道 1 小野正美(渡邊) 2 田正三(植田) 3 馬上八郎(泉)
▲柔道 1 岡本静(植田) 2 中野秀雄(勿來) 3 鈴木徳一(同)
▲銃劍術 1 蛭田義一(田人) 2 長瀬憲彦(植田) 3 吉田直衛(山田)

錦村の情婦殺 懲役十年の言渡し

石城郡南武徳大會は二十九日植田警察署演武場で舉行したが優勝旗は山田分區の手に歸した。個人成績は左の如くである
▲劍道 1 小野正美(渡邊) 2 田正三(植田) 3 馬上八郎(泉)
▲柔道 1 岡本静(植田) 2 中野秀雄(勿來) 3 鈴木徳一(同)
▲銃劍術 1 蛭田義一(田人) 2 長瀬憲彦(植田) 3 吉田直衛(山田)

昨年十一月九日午後七時頃石城郡錦村大字大倉共同墓地に於て情婦木田サツ(四九)を小刀で殺害した當時住所不定日雇業信夫郡瀬上町梅枝末藏(四五)に係る殺人事件の公判は去る二十六日平支部に開き市川檢察は懲役十年を求刑したが、三十日午前十時中島裁判長から懲役十年に處す旨の判決言渡しがあつた。午前十時から植田警察署に開く

遊興した歸りに 床飾りを失敬 抜け目のない消防手

石城郡小名濱町字定西一三番は五月三日午前十時から同村中地消防松本光雄(十九)は去る十平窪常勝院で行ふ。七日聯合消防檢閲の日本町田町料理店のんき事古川清吉方に登樓飾りがけに床に飾つてあつた銅製の天神を持ち去り自宅床に飾つておいたのを駐在巡査に発見檢査された。

遊興した歸りに 床飾りを失敬 抜け目のない消防手
石城郡小名濱町字定西一三番は五月三日午前十時から同村中地消防松本光雄(十九)は去る十平窪常勝院で行ふ。七日聯合消防檢閲の日本町田町料理店のんき事古川清吉方に登樓飾りがけに床に飾つてあつた銅製の天神を持ち去り自宅床に飾つておいたのを駐在巡査に発見檢査された。

愛谷江沿革之概要

依つて明治十九年時の福島縣令赤地欣一閣下に愛谷堰改造の急務なる事を當時の用水關係組合總代山崎宗平、永山泉七郎、青木半三郎の三名を以て申請し認許を得て縣の設計に依り工費の内縣補助一千圓の交付を受け夫役は組合に於て負擔し固定堰に改造し好間川に架設しある架橋を巾十一尺に改め漸く灌漑の安定を得たるも架橋の流失を免かるゝを得ず、且つ堰上流に年々土

磐城高女生 修學旅行通信

四月二十六日午前七時五分我等百三十名の喜びをのせた黒き巨体は日本晴の好天氣に恵まれ上野驛に向つた、次々と

磐城高女生 修學旅行通信

第一信
四月二十六日午前七時五分我等百三十名の喜びをのせた黒き巨体は日本晴の好天氣に恵まれ上野驛に向つた、次々と

展開される長閑な春景色「上野々々」と驛夫の呼び聲で一同はあこがれの東京へ到着しました、上野公園、發明博覽會、淺草へと見聞するもの皆驚異の外はありませんでした、この大東京の雑踏、如何に生存競争の激しいかをつく、認識できました、次に報知新聞社を見學し一同は空服をかへて夜の東京をマルビルに向ひました、その食堂での夕飯に舌つみみを打ち、後宮城前の廣場で一同整列し心より禮拜をした時は夜である故に尊嚴に自ら衿を正さしめると共に日本臣民たる自分を誇らしに感じました。赤、青、黄等ネオンサインの銀座を散歩し午後十時花の帝都に別れを告げ夜行途中つながらなくまことにすがすがしい朝に名古屋驛に到着しました。これから名古屋城に向ふところでありました。

(一面より)
ものがありました。當時の武士の生活、築城術の精巧等、山田の豊受大神、宇治の皇大神宮を拜んでは何とも言はれぬ氣に打たれました。各自の感じを秘めて！電車にて二見に向ふ。午後の四時過、名所の夫婦岩を拜み二見館に二日の旅の疲れを休めました。

露天商の隙を覗ふ
万年筆を盗む
當時住所不定無職茨城縣眞壁郡下館町生れ岡部武雄(一一)は數

松村
内科 専門
十二指 腸胃病 腸性病
婦人病 淋病
皮膚病 専門
院 醫科
(七〇一話電)

日前平町昭和産業博覽會第一會場前で露天商中の平町南町箕輪武が小便に行つた隙を窺ひ萬年筆七十四本先價格三十五圓を窃取逃走中の處二十九日平署に捕はれた。

鮮人の盗み 石城郡内郷村大字高坂無職朝鮮人金浩榮(四五)は四日午前十一時頃同居人南光壽所有の洋服外套價格二十圓を窃取し入質して遊興した事發覺二十七日平署に捕はれた

特賣會

レンコート.....特賣
春のセビロ.....特賣
春のズボン.....特賣
夏トントンビ.....特賣
防水マント合ゴム上等品.....一圓三十五錢
紺サージ通學服.....三圓四十錢

平町四丁目停車場通

正札堂洋服店
電話四三六番

ソーダファンテン
生ビール開始
ビンツメであります
レストラン サロン
電話三五二番

特産品大賣出し
殊に鯉節大暴落の爲め某製造家より委託販賣を受けましたお土産として一圓の品は必ず二圓に見られます。自家用の御方も此際お買求めが御徳策です。樽数に限り有ります。お早くと。

本鯉節籠入 壹圓均一
全 袋入 五十錢均一
一貫匁賣りは左に
上 品 一貫匁 五圓
上 品 一貫匁 四圓
次 品 全 三圓
品 全 三圓

平町三丁目丁角
鯛 部 源
製 造 元
あ 印
電話三〇三番

和洋銅鐵金物問屋
釜屋商店
諸橋久太郎
電話九九九番

内臓外科 整形外科 醫學士松永憲一
外科 一般
院長 木村寅次郎
平町字新川町
木村病院
電話一六四番

滋養、強壯劑として愈々好評
偉大なる藥酒 **栗守酒**
朝の一盃は精力の原、晩の一盃は睡眠の助力
栗守酒特約店 **大平屋藥店**
代價八日分壹圓九十錢 平町一丁目(電話四六二)

貨切御用命
三井自動車部へ
電話六八五番
乗合は 好間合戸・澤渡方面行

病室完備 平町南町
光線科
上田外科醫院
電話一二九番

外科 花柳病科 専門
平町六丁目橋際
木村外科醫院
電話三〇九番

レコード破りの石炭大特賣
磐城炭礦一二等炭
正味十貫匁一俵金卅錢也
「品が良く」値は安く「モットー」とする當店は此度超破格の格安石炭を販賣開始致します。値が安くとも品は悪くはありません。磐城炭礦の處分的大堀出物です。品物の無くなりないうちに御注文下さい。
配達は一俵より致します。

御注文は
電話三三七番へ
平町停車場前
阿部石炭商店

吉田眼科病院
平町紺屋町 電話六八番

生花教授
家元龍生派池坊
生花、盛花、投入、自然
營業では御座いません趣味で御相手致し度うございませす
平町仲町三
華道教授 天水庵 岡田華悦